

お客様 へ

元気通信

。お客様、こんにちは！ お元気で過ごしてはいかがでしょうか？

とにかく暑い！ この一言に尽きる夏でした。温帯地域から亜熱帯を通り越して熱帯地域に突入したかと思えるような連日の猛暑、そして夕方近くにはスコールを彷彿とさせる、局地的な凄まじい雷雨。これに遭遇するとはば為す術無し、恐怖を覚えながらもただ過ぎ去るのをじっと待つのみ、そして雷雲が過ぎ去ったあとは暑さがぶり返す。この繰り返しプラス迷走する台風に出張予定を狂わされ・・・。

子どもの頃は（年齢がバレそう！）暑いといつてもせいぜい30〜31℃程度でした。クーラーなんか無くて、団扇があつてもせいぜい扇風機、窓は開けっ放しで渦巻き型の線香を焚き、夜は蚊帳の中で入り込んできた蚊の、耳で聞こえる「ぷう〜ん」という羽音で目を覚まし、捕まえようとするとその果たせず、しつかり刺された箇所がかゆくてガシガシ掻いたあとに塗ったキンカンのまあ沁みたこと！ おばあちゃん家から家族絵出で海へ歩いて行く道中の林の中の緑の空気と涼しさ、焼けてサンダルを履いていても足の裏が火傷しそうな砂鉄の砂山をふた山ほど越えてようやく海辺にたどり着き、飛び込んだ（といつても私は浮き輪つき）海の心地よさとしよっぱさ。戻ってきて井戸水の冷たさに身震いしながら砂を落とし、縁側に腰かけて、従姉兄たちと下着姿でこられた井戸水で冷やされた大きなスイカにかぶりつき、甘さと冷たさが夏の日差しにすっかり焼かれた体に染み渡り、もつと夏が続けば良いのになあと考えた、まさに「〇丁目の夕日」を地で行っていた頃が懐かしく思い起こされます。今は1部屋に1台当たり前のようにクーラーが設置され、数々の美味しい夏の冷たい菓子や飲み物が充実し、快適な空間の中に身を置くことが出来てはいますが、その反面子どものころに味わった、不慣れな中でも和やかで穏やかな景色や情景は戻って来ない。快適と利便さと引き換えに、無くしてしまったものも多くあるのではないかと思うこの頃です。仕事では技術力の向上と現代の情報システムに遅れないよう努力をしていかなければならないけれど、あまりにも追いつけぬ過ぎた先の未来が果たして幸せになれるのか？ 昨今の暗い報道を聞くにつけ、もしかすると一旦立ち止まって、少し前の、今より少しだけ不自由な時代に戻ったほうが良いのではないかと、そんなふうにも思えます。季節の移り替わりの時節、どうぞ「自愛ください」。



引越しました（後編）

島貴 修一

引越は人と物の移動だけではなく住所変更手続きもある。銀行と郵便局は旧住所から歩いて行ける距離にあるので、引越前に窓口で書類を書いて済ませた。それ以外は引越後にまとめてやろう。Webと電話なら簡単だろうと安易な気持ちでいたが、21世紀のWebが150年前の電話に利便性で劣るとは思ってもみなかった。

引越後に最初にしたのは役所での転入届けと、免許センターでの住所変更。次に取り掛かったのが生命保険・医療保険・傷害保険・車のディーラーと任意保険と車検証・クレジットカード・ETCカード・色々な店のカード・インターネット・携帯・テレビ受信料・JAF・ネット通販（塩引き鮭・一夜干しイカ・カメラ・本・DVD）で登録した住所。

手続き開始。まずはホームページにアクセスするが、ホームページは自社の宣伝と商品の販売目的のメディアであり、「住所変更」はその他のサービスの一つに過ぎない。そのため根気よくスクロールとクリックを繰り返し、ホームページの隅っこに潜んでいる「各種変更手続き」「その他の手続き」を捜し出す。あー面倒だ。それでもホームページを隅から隅まで調べても見つからない（手続きの項目が無い）店もあった。

ある企業ではホームページの住所変更画面の説明文が意味不明（矛盾した表現で判断に迷う）。電話してオペレーターに同じ画面を見てもらい説明を聞きながら入力した。

Webでの苦労に対して電話は楽だった。オペレーターに住所変更と言えば、後は向こうからの個人データと新住所についての質問に答えれば終わり。あっけないくらい簡単。

電話手続きは利用者の音声オペレーターが頭の中で文字に変換して、企業のデータベースに文字入力している。オペレーターの人件費がかかるが利用者の手間が最少で済む。それに対してWeb手続きは利用者がデータベースに直接文字入力することで、企業が人件費を節減できるシステムだが、商売最優先で利便性への配慮が欠けている。

解決策はAI制御の無人受付と無人コールセンターかな。技術革新で音声認識を飛躍的に進歩させれば、オペレーター（処理能力）の数に制限は無いし人件費ゼロで24時間365日稼働できる。実現できれば受付も案内所も緑の窓口（絶滅危惧種）も「有人よりも親切に対応する」無人窓口になる。電話番という言葉が死語になるかも。

■【魅惑のナポリタン】 事業企画・広報室 室長 明間 芳規

私は元々ナポリタンが好きではありませんでした。あのケチャップ感とピーマンとソーセージの取り合わせがなんとも言えず好きになれませんでした。そんな私がナポリタン好きになってしまったきっかけがあります。新潟市の白山神社の参道にあたる上古町にある「ムーラン」という喫茶店のナポリタンです。ほどよいケチャップ感に玉ねぎ、ソーセージ、ピーマンと具材も至ってシンプルなのですが、これが美味しい！以来、美味しいナポリタン探しにハマってしまっています。

現在のところ、2番手評価のお店は同じく新潟市本町通りにある「横綱」です。居酒屋なのですがシメに食べる目玉焼きののったナポリタンが何とも美味しい！そもそも目玉焼き自体もあまり好きではないのに、ここのナポリタンは目玉焼きととても良いコンビネーションで大好きです。

皆さんはナポリタンはお好きでしょうか？どちらかお勧めのお店がありましたら教えてくださいと嬉しいです。

ん、はまっていることは？

■【カップ酒集め】 技術営業部 山岸 壮馬

カップ酒の空き瓶をコレクションすることにハマっています。

とある酒蔵で集めている方がいて、ズラッと並べて飾られているのを見てから私も集めるようになりました。

好きなお酒も飲んで、コレクションもできて一石二鳥！

プリント瓶がメインですが、気に入ったラベルがあると買うようにしています。道の駅や酒販店に行くとつい探している自分があり、フリマアプリで空き瓶を見つけるとポチっています。

ご当地キャラやアニメ等のコラボカップ酒はあるありますが、企業コラボ、国内でとある1店舗のみで限定販売しているカップ酒、中身は一緒ですが絵柄が14種類あるカップ酒などがありコレクション魂を燃らせます。

まだ100本程しかありませんが、いずれはコレクション棚を作り、ニヤニヤ眺めながらお酒を呑みたいです(笑) 詰める手間や昨今の瓶事情もあり、販売終了したものも多いのですが、復活したら購入しますので、ぜひお願いします(笑)



「新洋技研からサラリーを得る傍ら、プライベートでは釣り・山菜取り等を通して自然界からもサラリー（自然の恵み）を得る筆者の春夏秋冬サイドビジネス“珍”日記」

技術営業部 坂井 将之

Vol.7 夏のサイドビジネス “鮎の友釣り”

釣行日：2023.7月・8月中 場所：新潟県村上^{みおもて}市三面川

“夏の釣り”と言えば、私的には釣り番組で「砂浜の女王」と言われる“シロギス釣り”と、昨年、このコラムで投稿した“鮎の友釣り”がここ近年の2本柱。毎年夏になれば日の出前の早朝4時頃から、我が家から車で5分ほどの砂浜で、青イソメやジャリメといったミミズの様なエサを使ってシロギス釣りを楽しんでいるハズなのですが・・・今年の猛暑？酷暑？？とにかく暑い！日の出前から十二分に暑い！！日の出後はとにかく日差しが痛い！！こんな状況で砂浜へ行ったらナメクジの如く汗で溶けてしまいそうだったので、今シーズンは砂浜へは1度も足を向けず、ひたすら“涼”を求めて三面川へ通いました。

昨年は、8月3日から4日にかけて新潟県北部地方に線状降水帯が発生し、三面川が流れる村上市や、その周辺の関川村、胎内市は記録的な大雨となり甚大な被害に見舞われました。その影響で昨年の8月中の三面川は濁りが酷く釣りができる状況ではありませんでしたが、今年は、若干被害の爪痕が残るものの、いつもの綺麗な三面川の姿に戻っていました。自然の治癒力や美しさに感銘を受けながら今シーズンも実釣開始です。

今夏は連日の異常なほどの酷暑により不要不急の外出を控えるようにとメディアでアナウンスが流れていましたが、一日中、川の中にいれば全然平気。頭は少し暑いけど、そんな時は帽子を川の水で濡らして被ると最高に気持ちがいい♪休日を一日中家で過ごしていたら、昨今の電気料金高騰により大変なことになっちゃいそう。そう考えれば、鮎釣りはエネルギー問題にも貢献しているかも。(笑)

日中でもエアコン要らず…ECOな大人の川遊び。今シーズンも釣果はイマイチだけど、電気料金浮いたハズなのでビジネス大成功\(^o^)/



◆ちょっと豆知識◆その57「ところ変われば品変わる？」

技術営業部 取締役部長 成田 護 (mamoru@shinyo.co.jp)

これまでもウイスキーメーカー様とは数社お取引がありましたが、この度新規で立ち上がるウイスキーメーカー様のお仕事をする機会がありました。

蒸留装置等はさすがに手が出ませんので、発酵タンク及びその他タンクの案件を担当しました。

蒸留装置メーカーが機器の搬入やら設置、配管接続の仕事をされているのとはほぼ同じタイミングで当社も仕事をしていたので、つぶさにその仕事ぶりを拝見する機会に恵まれましたが、我々（清酒メーカー様及びそこにかかわる設備メーカー等）とは基本思想が随分違うことに驚きました。

例えば、蒸留装置とその周辺機器はすべて固定配管でつながっています。一方中小規模の清酒メーカーでは必要に応じてホースを引っ張ってお酒の移動をし、終わったらホースを洗浄して片付けるのが一般的だと思います。

件のウイスキーメーカー様は清酒メーカーの関連会社なので、スタッフはすべて清酒製造経験者。発酵タンクから蒸留装置へのもろみの移動だけはホースをつないで、という構想のようなのですが、蒸留装置メーカーの技術者に「なんでそんな前近代的な方法を採用するのか？」と不思議がられた、との話は非常に印象的でした。

配管の接続仕様ひとつとっても、今回の設備はほとんどが溶接繋ぎ。当然状況に応じて当社が施工する場合でも溶接でつなぐことはありますが、施工性その他の観点からフランジやねじ込み等の接続を選択することの方が多いです。溶接だと手間も大変だしトラブル時のリカバリーが大変ではないのかな、などと私なんかは考えてしまいますが、蒸留装置メーカーからすれば「継手接続の方が漏れとかのリスクが高くて、むしろそっちの方がトータルで見れば手間もコストも掛かるんじゃないの？」ということなのだと思います（私の勝手な妄想であって蒸留装置メーカーの方から聞いてはいません）。

貯蔵容器が大型のタンクか 400L 程度の樽か、アルコールの濃度に起因する最終製品の保存性の違い、蒸留という決定的に違うプロセスの有無、あるいは産業の成立史等、「今のやり方」に影響を与えている要因は多岐にわたると思いますが、自身の周囲の常識が他所だと非常識、というのを久しぶりに体験しました。

今回みたいな「異文化との遭遇」の中に次のビジネスのヒントが隠れているのではないか、なんてことを考えた一件でした。

■ 命 拾 い ■

基幹事業サポートチーム 角田 義秋

私の実家のすぐ近くに水の綺麗な小さな川があります。この川は農業灌漑用の川で、農繁期には綺麗な水がとうとうと流れているのですが、時々水量調節のため元の水門をしめます。すると川の水が減水し、子供の膝程の深さになります。こんな時は待ちましたとばかりに網を持って魚獲りに行っていました。これが一番の夏の楽しみでした。ところが小学1年生の夏、例によって魚を獲ろうと川に入っていたところ状況が一変します。川の水かさが見るみるうちに増えて、私の胸ちかくまでになりました。まだ泳げなかった私は水の流れの中でもがき、水も飲みました。するとからだが一瞬と浮きました。一緒に魚獲りをしていた近所の6年生のお姉ちゃんが助けてくれたのです。この事は一生忘れられない出来事となりました。それでも泳ぎを覚えたのはやっぱりこの川でした。この経験をしたからなのかは定かではありませんが、小学生から水泳は一生懸命やりました。小学5年生の、体育の授業の時に、担任の先生（結構厳しかった男性教師）に25メートルをターンして50メートル競争しようと言われ、同時に飛び込みました。50メートル泳ぎ切って後ろを見たら、先生はまだ10メートルほど後ろにいました。

うちの偉も水泳教室に通わせはしましたが、基礎から習得することは正しいけれど自分からがむしゃらに覚えることも大切だと思います。

前職で仕事のほかに社内のレクリエーション行事で一番やりたくてやれなかったのがこの水泳関係の行事でした。会社にプールがなかったからです。社員からも水泳大会をやってほしいという要望もあり、近隣の学校や施設を借りられないか探したらあるものです。近くに私立の高校があり、25メートルの室内プールを持っているとの事。早速交渉開始当方希望の休日に借りれる事となり会社始まって以来の室内プールでの水泳大会が開催されました。観覧席のある室内プールというだけでテンションが上がります。結果は大盛況でした。

今や暑い夏は海に漬り、プールは泳がずひたすら歩くのみ。遠い昔の楽しい思い出話でした。